ARCHITECT

NO.322

2015. 7. JUL.

CONTENTS

自作自演191 …… 原田喜代美・川崎拓二・藤吉洋司・中西修一 …… 2

新連載　第1回　フランスと日本の関係－対外文化政策のいまー

「パリ日本館／バロン薩摩の夢……」…… 松本茂章 …… 4

特集・連続企画　地域社会と建築をつなぐもの5

若手建築家の意見②　社会とつながる「図式」と建築固有の「寸法」 諸江一紀 …… 6

JIA愛知発　住宅研究会　環境セミナースタートアップ講座…… 宮坂英司 …… 7

JIA愛知発　東海住宅建築ツアー・全国住宅部会連絡会議

各支部住宅部会の交流、話し合いの場つくる… 浅井裕雄・近藤万記子・笹野直之 …… 8

JIA愛知発　美術サロン展　10回目の美術サロン展、来場者300名超

神谷義夫・栢本良三・榎戸正浩・川窪　巧・後藤文俊・田中英彦・福田一豊・山田尊久・

山田正博・吉川法人 …… 10

子どもの建築学校委員会設立に寄せて …… 鈴木賢一 …… 12

速報！ 第22回JIA東海学生卒業設計コンクール2015 公開審査結果　吉川法人 …… 14

「JIA東海支部大会2015」に向けて …… 浅井裕雄 …… 15

▶東北からのメッセージ

建築家協会の「ストロングポイント」 …… 杉山貞利 …… 16

▶東海の減災を考える　名古屋大学減災連携研究センターからの提言

埋設配管の変形特性の理解と建築物導入部 …… 北野哲司 …… 17

会員のステージ

「世界劇場会議名古屋フォーラム2015」参加レポート　テーマ「劇場の天井は大丈夫か?」… 石橋　剛 …… 18

保存情報164　名古屋商工会議所ビルディング …… 谷口　元 …… 19

圓福寺観音堂 …… 山上　薫 …… 19

理事会レポート …… 石田　壽 …… 20

理事会レポート …… 鳥居久保 …… 21

東海支部役員会報告 …… 尾林孝雄 …… 22

東海とっておきガイド㊽静岡編 …… 鈴木俊史 …… 23

地域会だより …… 23

法人協力会通信⑱三晃金属㈱岐阜営業所 …… 堀井邦彦 …… 24

編集後記 …… 石田博英・笠嶋淑恵 …… 24

東海の集落 4

岐阜県中津川市馬籠峠地区。旧中山道馬籠宿から妻籠宿へ向かう道中、馬籠峠の頂上手前に二、三十戸の民家が街道沿いに軒を連ねる集落がある。峠を越えれば長野県である。観光地として賑わいを見せる馬籠宿と妻籠宿の間にあるこの集落はあまりにひっそりとしていて、私が訪れた日に見かけたのは一組の散策を楽しむ観光客と、軒下でたたずむ老女だけであった。かつて旅館や店舗であったであろう建物があることから、それなりの賑わいがあったことが想像できる。集落にひと際立派な住宅がある。国の登録有形文化財に平成二十二年に登録された今井家住宅である。明治前期の建物で、江戸時代、牛方と呼ばれる民間輸送機関の組頭を務め財を成した家だそうだ。旧街道に人の往来があったころの繁栄の歴史が感じられるこの集落も、若者の息遣いが消え去り、住民は高齢者ばかりになっているようだ。限界集落がここにもある。集落の街道を登りきったところにある小さな神社が静かに集落を見守っていた。

Google Earthより

生津康広
生津建築設計室アーキハウス

07_アーキテクトcs6.indd 1　15/06/19 17:30

自作自演⑼

原田　喜代美（JIA静岡）

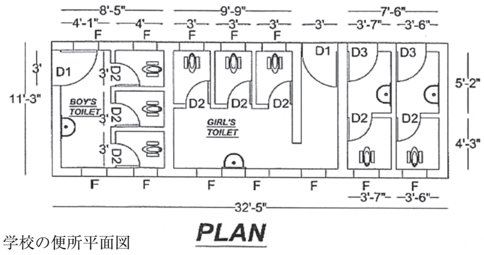
岡村・原田建築設計事務所（静岡市駿河区八幡2-16-8　TEL 054-286-8060　FAX 054-286-8087）

ジェフリー・バワ

ロータリー財団には、2620地区（静岡・山梨）から財団に寄付したお金に応じて、人道的プロジェクトが行えるグローバル補助金制度があります。この制度で現在スリランカの9つの学校に便所を建設するプロジェクトを私のクラブが進めています。総額1,000万円ほどです。

スリランカの地方の学校は、男女別の便所がなく、男子はジャングルで、女子は我慢するとか、生理のときは休むといったことになっているようです。また、飲み水が硬水のため、軟水装置も必要で今回のプロジェクトにはこれも含まれています。

これらは奉仕活動として大事なことですが、私の目的はもうひとつあって、スリランカのジェフリー・バワの建物を見ることです。すでに3回スリランカを訪問し、6カ所を見て回っているのですが、今年9月のプロジェクト完成式に行った折には、今まで果たせなかったシギリアのカンダラマ・ホテルに行こうと思っています。



学校の便所平面図

Ruhunu University

川崎　拓二（JIA愛知）

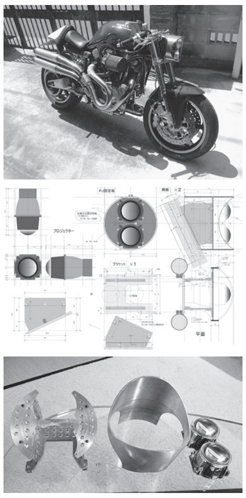
日本設計 中部支社
（名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ2F　TEL 050-3139-7300　FAX 052-201-8480）

あるバイクとの出会い

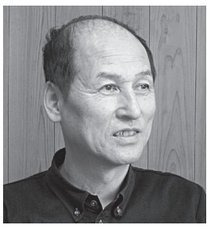
出会ったのは17年前のことだった。通りすがりのバイクショップで見つけた一風変わったバイク。興味本位で立ち寄っただけなのだが、イグニッションスイッチを入れた瞬間やられてしまった。「ドドッ! ドドッ! ドン ドン ドン!」エンジンの底をつくような野太くパンチの効いたサウンド。走らせれば車体を震わせながら猛然と加速し勢いよく給排気するさまは、獰猛な生き物のよう…。興奮覚めやらぬ間にお買い上げとなった。

それからひたすら走り込み数年、今度はカスタムの道へ進むことに…。ここからは建築設計に似ている。基本方針はこのマシンの素性を理解し、どうデザインするかである。まずこのバイクの面白いところや最初に乗ったときの感覚、自分の乗り方をなんとなくイメージし、スケッチで形にする。次にフレーム構成やパーツの機能、レイアウトなどをカタログや写真を確認し、できることに当たりをつける。そのあと見合ったパーツの選定を行い、無いものは設計図を起こして製作。専門性が必要な動力・給排気・足回りはショップの方とチューニングを施す。これで完成！のはずが着手して十数年が経った今もいまだ完成には至っていない。再開発事業並みの時間を要しているのになぜ完成しないかというと、トライアンドエラーの繰り返しで少しずつしか進まないからである。ただ今出来高90%。

バイクは一つ一つが明確な役割を持ったパーツの集合体で形づくられている。いじったらいじった分だけ変わるけど良くも悪くもごまかしは利かない。結構ミニマムで繊細なのである。だからバイクいじりはやめられない。


上｜愛車のBUELL　中｜設計図
下｜パーツ

07_アーキテクトcs6.indd 2　15/06/19 17:30



藤吉　洋司（JIA愛知）

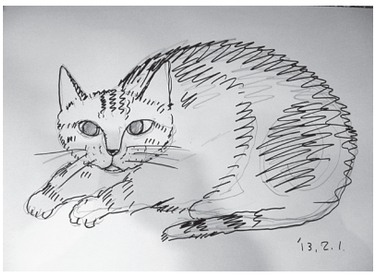
藤吉建築設計事務所（名古屋市千種区新池町4-79　TEL 052-781-2002　FAX 052-781-2060）

愛猫のスケッチ

毎月のように月初めにわが家の猫のスケッチを描いてブログに載せています。描き始めてかれこれ4年近くになりますがいつになってもうまくならない。にもかかわらず性懲りもなく何年も続けられるのは猫の表情が毎回違っていて見飽きないのと、いつも何か新しい発見があるからでしょう。たいていのものはいいと思ってもそのうち見飽きてしまい感動しなくなるのが普通。自分がかかわる設計の仕事も同じようなことが言えそうな気がします。猫のようにずっと人を惹きつける力がある建物はどういうものか考えてしまいます。

そんなものがつくれたらすばらしいと思いつつ今月も猫に向きあうのでした。さて今月の出来は？

2015年5月のスケッチ



2013年2月のスケッチ

中西　修一（JIA三重）

shu建築設計事務所（三重県多気郡明和町明星1754-3　TEL 0596-52-6400　FAX　0596-52-6439）

わがまち明和町の「斎宮」が日本遺産に認定！

みなさんは「日本遺産」をご存知でしょうか？　今年度から始まった文化庁の事業で、歴史的魅力にあふれた文化財群を地域主体で総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信する事により、地域の活性化を図ろうというものです。認定されるには日本の文化・伝統を語るストーリー性が求められ、明和町は「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」として認定されました。全国で18件が認定され、三重県内では唯一、わがまち明和町だけとなっています。

明和町（三重県多気郡）は伊勢の隣町で伊勢神宮から10kmほどに位置し、伊勢神宮とは深いつながりがある土地なのです。飛鳥時代から南北朝時代にかけての約660年間は、未婚の皇族女性が斎王（さいおう）として選ばれ、都を離れて伊勢神宮の天照大神に仕えるという制度が行われていました。また、「斎宮跡」は国史跡として指定され、現在も発掘が進められています。

とにかく県内唯一の「日本遺産」というところが非常に嬉しいわけで、これを機会にいろんな方に明和町を広く知っていただきたいと思っています。建築絡みでPRさせていただきますと、2000年には文化庁の補助を受け「いつきのみや歴史体験館」が文化財保存計画協会＋広瀬鎌二氏の設計（構造設計は増田一眞氏）で建設されています。三重の杉・桧を使用し、構造金物は一切使用していない建物です。さらにこの秋には斎宮跡の整備事業として平安時代の復元建物が3棟完成します。こちらの方は杉普請で屋根は檜皮葺きとなっており、完成まで毎月行われている現場見学会は一般の方にも大人気です。

そんなわけで、みなさん、伊勢にお越しの際はぜひ、明和町にも来てみて下さい！

07_アーキテクトcs6.indd 3　15/06/19 17:30

新連載　フランスと日本の関係 ～対外文化政策のいま～　＜第1回＞

「パリ日本館／バロン薩摩の夢……」

松本茂章｜公立大学法人 静岡文化芸術大学文化政策学部教授

筆者は、わが国における自治体文化政策の研究を専門としている。一方で、日本の対外文化政策に関心を持ち、ときおり渡仏調査に出向く。パリは「芸術の都」であるうえ、UNESCO（国連教育科学文化機関）本部が置かれ、各国の対外文化機関が多数集まる「文化外交の十字路」であるからだ。今回、本誌に6回の連載を執筆する機会をいただいたので、パリの日本系文化施設や団体を中心に紹介してみたい。第1回はパリ日本館である。

パリ国際大学都市とは

パリ日本館（Maison du Japon）は通称名で、正式には「パリ国際大学都市日本館－薩摩財団」という。国際大学都市は広さ34ヘクタール。パリ最南端の14区に位置し路面電車が走るジュルダン大通りに面する。林や芝生の敷地には各国や仏国の留学生寮40が立ち並び、大学などで学ぶ1万人余りの学生や研究者が暮らす。寮の土地・建物は仏国の所有で、運営には2種類ある。国立財団法人「国際大学都市」が直営する直轄館と、各国政府などが建設した各国館である。大半の各国館は、それぞれの公益財団法人が自主的に運営している。

高速郊外鉄道RERの最寄り駅で降りて地上に上がれば、敷地が目前に広がる。劇場、図書館、レストラン、スポーツ施設が備わり、1つの「まち」になっている。国際交流や親善の狙いから、各館にあるサロンでは、音楽会などの文化事業が繰り広げられている。

大学都市を提唱したのは、第一次世界大戦後に文部大臣を務めたアンドレ・オノラ（1868～1950）である。1925年、最初の建物（ドゥーチェ・ドゥ・ラ・ムルトゥ館）が竣工したあと、各国の財界人らに寄付を呼びかけ、次々と留学生寮が建てられた。今も正門近くに銅像が立つオノラは理想家だった。将来各国の指導者になるであろう留学生たちが出会い、交流して相互理解を深めれば、世界平和の基礎に貢献すると訴えた。

筆者が初めて訪れたのは2008年3月。当時、仏留学中の愚息が同大通りを挟んで向かいに位置するパリ高等師範学校の寮に暮らしていた縁で、同都市を視察した。館長が「貴重な文化資源として後世に伝えていきたい。日仏交流に貢献した日本館の存在意義を強く訴える」と話した言葉が印象に残り、2013～14年に再訪して詳しい聞き取り調査を行った。

大学都市の入り口正面に建つ国際館。米財閥ジョン・D・ロックフェラー・ジュニアの寄付で、1936年に開館した。劇場、図書館、学生食堂などが備わっている

城郭ふうの日本館

学寮の1つであるパリ日本館は、大学都市の正門から入って左手に進み、5分ほど歩くと見えてくる。鉄筋7階建て地下1階。日本の城郭のような外観に黒い切妻屋根なので、すぐ分かる。建物は、フランス人建築家ピエール・サルドゥー（1873～1952）が設計した。19世紀の劇作家ヴィクトリアン・サルドゥーの長男で、多くの公共建築を手がけた。

部屋数は70室。2013年10月1日時点で日本人留学生（大学院後期課程）22人、非日本国籍留学生24人、日本人研究者（博士研究員、大学教員）16人、日本人一時滞在者7人が暮らしていた。かつては仏文学を研究する大学院生が多くを占め、2007年当時は日本人居住者42人のうち、学生が38人だったので、学生が随分と減ったことになる。近年、奨学金や助成金を獲得して仏国の高等教育機関や研究所に赴任する理科系の博士研究員（ポスドク）が急増しているからだ。仏国は文化系だけでなく、理科系の研究も盛んなのである。

気がかりなのは日本館の老朽化だ。室内あるいは共同スペースの台所の壁には亀裂が走っていた。これまで2度、大規模改修をしたが、そろそろ次の大規模改修時期が迫る。

バロン薩摩が寄付をした

資産家の薩摩治郎八（愛称・バロン薩摩）（1901～1976）が、建設資金350万フ

07_アーキテクトcs6.indd 4　15/06/19 17:30

左｜切妻屋根の城郭風デザインで知られる日本館の外観
上｜日本館地上階のサロン。舞台も設けられており、音楽会や講演会が行われる。舞台奥には藤田嗣治の大作が掲げられている
（写真はいずれも筆者撮影）

ラン（当時の金額）や財団の設立基金35万フランの寄付をした。日本人芸術家のパトロンだったことでも知られる。建設費とは別に30万フランの費用を出して藤田に絵画制作を依頼。大作「欧人日本へ到来の図」「馬の図」2点が今も1階サロン（大広間）や玄関廊下に飾られている。1929年5月10日の落成式には大統領ガストン・ドゥメルグ、首相ポワンカレらの要人が出席した。同年の初代入居者に中谷宇吉郎、岡潔、前川國男らの名前がある。ル・コルビュジエ事務所で修業した前川のほか開館初期には欧州視察の今和次郎、逓信省の営繕技師山田守らの建築家も滞在したというから、日本建築史にとっても重要な場所である。

戦後の薩摩は財産を使い果たして帰国、東京で暮らした。ダンサーだった徳島出身の女性と知り合い結婚。阿波踊りを見に出かけた1959年夏に脳出血で倒れた。回復後も「徳島はマルセイユのようだ」と気に入って徳島暮らし続け、南国の地に骨を埋めた。筆者は2008年5月、日本映画『眉山』で知られる眉山麓の寺院を訪ねて治郎八のお墓を探し、手を合わせた。雨にけむる日だった。波乱万丈の人生と世界平和を願ったバロン薩摩の夢に思いをはせた。

文化資源として存続するために

なぜパリ日本館に関心を持ったのか？

同館の物語が民間主導から始まり、現在でも官と民の協働で運営されているからだ。建設予算が民間から支出された後、開館当初、外務省は予算がなく費用負担しなかった。1934年から年間1万円（当時）の補助金を出した。戦後、在仏日本大使が議長を務めた任意団体の管理委員会が建物を管理。2011年から仏国の公益財団法人となり管理理事会（理事長＝日本大使）が建物管理して寮を運営している。

資金調達の方法は3つある。1つに日本国政府からの補助金、2つに入居者が負担する室料収入、3つにはサロン使用料収入などである。国の補助金は2002年度に11万8167ユーロあったものの、2012年度は9万8000ユーロに減った。減少傾向にある。収入総額に占める割合は20％台を維持していたものの、2011年度は18％台、2012年度は17％台に下がった。

2007年度に大幅な赤字を出したので増収策を迫られた。28代館長（2008年4月から2年）の西永良成（東京外国語大学名誉教授）、29代館長（2010年4月から2年）の寺尾仁（新潟大学工学部准教授・都市法学）、30代館長（2012年4月から2年）の佐野泰雄（一橋大学教授・仏文学）の3代で財政再建に乗り出し、室料の値上げを実施、空室を埋める懸命な入居調整を図った。年間室料は2002年度の30万5477ユーロから2012年度には43万4756ユーロへ急上昇して増収を実現した。音楽会や講演会を開催できる地上階サロン（大広間）も1日6時間350ユーロの有料で貸し出しを始め、年間2万ユーロ余りを稼いだ。

寺尾仁（1957年生まれ）は「名誉職ではなく、ホテルの支配人みたいな仕事」と苦笑しながら老朽化した建物の改修に奔走した。「在任中は設備のトラブルに悩まされ続けた。排水管が体毛で詰まり特殊な方法で取り除いた。屋根の煙突の金網が破れてハトが入り込んだので、大使館に交渉して特別補助金を獲得して修理できた」と振り返る。都市法学が専門の寺尾は工学部に所属して建物の構造や建設契約に詳しく、電気契約を自ら行った。

寺尾在任中の2011年3月11日、東日本大震災が発生。館長と在寮生が連携して急きょ地上階サロンで震災支援のジャズコンサートを開催し、大学都市に暮らす学生らから義援金を集めた。東北大学から渡仏していた同館若手研究者がパソコンを用いて最新の被災地情報を参加者に伝えた。こうした文化事業を通じた国際親善も同都市の狙いの1つである。

今後、どうすれば歴史的な建築物を保存し、存続できるのか？　民主導という経緯から、日本政府の公的資金だけに頼ることは難しそうだ。民間の理解と寄付が求められる。これまで果たしてきた人材育成機能、あるいは国際交流機能など、パリ日本館の意義と業績をもっと丁寧に語る必要があると思う。仏研究の関係者にとどまらず、より広く多くの人々に知っていただきたい。だからこそ、同館の物語を建築の専門誌で紹介しようと考えた。（敬称略）

まつもと・しげあき
早稲田大学教育学部卒、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程（後期課程）修了。博士（政策科学）。読売新聞記者、支局長を経て2006年4月から県立高知女子大学教授（現、高知県立大学）。2011年4月から現職。日本文化政策学会理事、日本アートマネジメント学会関西部会長、NPO法人世界劇場会議名古屋理事。単著に『芸術創造拠点と自治体文化政策　京都芸術センターの試み』（2006）、『官民協働の文化政策　人材・資金・場』（2011）、『日本の文化施設を歩く　官民協働のまちづくり』（2015）（いずれも水曜社）

07_アーキテクトcs6.indd　5　15/06/19　17:30

特集・連続企画
地域社会と建築をつなぐもの
5

若手建築家の意見②

社会とつながる「図式」と建築固有の「寸法」

企画担当：吉村昭範（D.I.G Architect）　アドバイザー：伊藤恭行（CAn・名古屋市立大学）

プロポーザルと聞くと懐かしさを感じる。以前勤めていたCAnや高松伸の元では頻繁に取り組んでいたが、独立して7年間、ほとんどと言っていいほど参加していない。事務所実績や建築士の数などの参加要件を満たしていないことが主な理由だが、小規模でユーザーと密にかかわれる住宅の方に魅力を感じていたからかもしれない。

とはいえ、この閉じた状況に留まっていることに疑問を感じないわけでもない。昨年、愛知県の若手建築家で展覧会やシンポジウム（※1）を行ったが、そこへゲストとして参加した五十嵐太郎氏は、隈研吾氏の「パドックからカラオケへ」（※2）という論文を引き合いに出し、出展者の今後を問いただした。戸建て住宅は本レース（公共建築）へ出場する前のパドックではなく、施主や仲間内で盛り上がるだけのカラオケと化しているのではないかという批評である。昨今のリノベーションやセルフビルド、コミュニティデザインやワークショップといった流れも建築理論や計画を大上段に構えるより、身近なつながりを大切にするカラオケ的傾向であろう。先日、来日したレム・コールハース氏もそんな日本の建築状況に対して「政治と関係を持てない、議論できないことは退化である」（※3）と警鐘を鳴らしている。

プロポにも政治にもかかわれないことに危機感を持ちつつ、住宅やリノベーションに魅力を感じてしまうアンビバレンツな状況において、われわれ若手建築家はどのようなスタンスを取るべきか。身近なまちづくりやハードルの低いコンペから少しずつ規模を広げるのか。役所に対してコンペの有効性を説き続けるのか。入札という禁断の果実に手を出すのか。はたまた日本を離れ、後進国などに新たなフィールドを求めるのか。

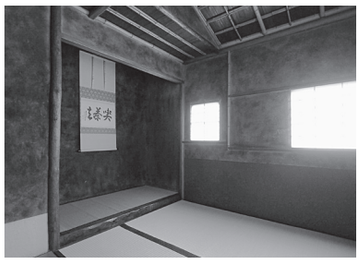
それらの活動は建築と社会をつなぐという点では意義を感じる。その一方で、建築を一般の人に伝えるにはある程度のわかりやすさが必要であり、わかりやすさを求めすぎると建築はアイコン化、図式化してしまわないかという危惧も感じる。そういえばプロポーザルは設計者の負担を減らし、案ではなく人を選ぶという名目のもと、図面やパース、模型写真の提出を禁じられることが多い。つまりスケッチやダイアグラムで表現しないといけない（とは言え、実際はある程度の図面や模型をつくり、それを要項に合わせて簡略化させている。負担を減らすどころか、ひと手間増えている）。

図式は建築にどこまで影響するものなのだろうか。昨今の雑誌をにぎわしている建築もダイアグラムやアイコン性の強いものが多い。そう、それを広めたのもコールハースだったように思う。図式の整った建築は認識を強化することはあっても空間体験を豊かにするのだろうか。アイコニックな建築はランドマークとなり得ても心象風景となるのだろうか。この連載のアドバイザーとなっている伊藤恭行氏も新建築住宅特集誌（※4）においてダイアグラムの魅力と危うさを指摘している。

また、建築家の西沢大良氏は「建築は寸法の芸術」（※5）であると言っている。ダイアグラムには表現できない優れたスケール感こそが建築を絵画や建物ではなく「建築」たらしめる所以ではないか。われわれ若手建築家は先輩建築家たちが磨いた寸法感覚にどれだけ迫れているのだろうか。ミースの笠木はなぜ厚いのか。吉村順三の障子はなぜ細いのか。妹島和世氏が「梅林の家」を発表したとき、ジョン・ソーン自邸に通ずるものを感じた。壁の厚さや表現の違いはあるが、小さなスケールの空間がひしめき合い、吹き抜けや天窓で距離を保ちながらつながる様子は時代と地域を超えて共通する独自性がある。

そういったプロとして本来身につけるべき術を持たずして、建築家顔して安易に住民と対話することには躊躇してしまう。逆に昨今のクライアントがインターネットなどで得る建築の知識量には驚くべきものがある。下手をすると将来、建築家は不要となるかもしれない。Googleは与条件を入力すると自動で設計されるソフトの開発も始めている。3Dプリンターで家をつくるなんてアイデアもある。

社会とつながれないことに焦りを感じるのではなく、いにしえの建築家が獲得していた寸法感覚、素材への理解、光の導き方など、美と機能への探求を地道に続けるべきではないだろうか。その道を究めたときにネットでは得られないテクトニック（※注）が社会から求められると期待している。


小さなスケールの建築事例「平成待庵」

※1　AAA30s「住まいが風景をつくる」展 2014/5/25 ～2014/6/1
※2　「新建築 2006年5月号」
※3　facebook上での藤村龍至氏のコメント 2015年5月19日
※4　「新建築 住宅特集 2013年10月号」
※5　twitter上での西沢大良氏のコメント 2014年5月5日
注　テクトニック：結構。美学的観念を含んだ構築方法

諸江一紀｜諸江一紀建築設計事務所

07_アーキテクトcs6.indd 6　15/06/19 17:30

JIA 愛知発　住宅研究会

環境セミナースタートアップ講座

会場の様子

JIAの愛知地域会、それも住宅研究会に入っていることに、メリットを感じていこう。また、感じてもらおう！そんなかけ声の下、浅井住宅研究会会長とコアメンバーの会員を中心に、今後定期的に連続環境セミナーを開催していくことを企画し、決定しています。現在、その準備が着々と進行しています。セミナーに参加した会員は、自分の設計した物件の環境評価ができるようになること。それが最大の目標となっています。

今回はその第1回目。環境セミナーのスタートアップセミナーということで、愛知医大の講師、梅村朋広先生をお招きして、「家庭内事故の発生状況―入浴事故とトイレ事故について」という主題のもと、ご研究されている専門分野から、2時間弱の講演を行っていただくことができました。

このような内容は、本で読んだり、テレビで見聞きしたりしたことは誰しもあると思います。しかしながら、直接研究されている研究者からお聞きすると、やはり実感的に理解できますので、とても有意義だったと思います。

お話の冒頭、人間は50年で一生を終えるように設計されているということをお聞きしました。その50年のうちに子孫を残し、死んでいくのが普通の姿なのだそうです。また、人間は豊かな環境に対して十分に対応できるようにはつくられておらず、そのような空間が苦手なのだとお聞きしました。人間の源流はアフリカであり、暖かい場所を好み、逆に冷たいものには対抗するようになっているともお聞きしました。実際、ウイルスは暖かいところで増殖し、寒冷地では増殖が進まないのがその典型例だそうです。

愛知医大 梅村朋広先生

イギリスの保健省から、健康的屋内温度について、具体的な数字があげられていることが紹介されました。良いとされる屋内温度は、気温21度。19度はあまり良くない状態で、16度になると非常に良くないと評価されるそうです。風邪を引きやすくなるとのこと。そうなると、日本の古い住まいは、全く良くない温熱環境であるということは、明白ですね。

気温18度は夜なら問題ないとのこと。しかしながら、日中の活動においては推奨されないのだとか。また、気温9～12度の場合は、血圧上昇リスクが上がるそうです。よって老人の場合の理想的温熱環境としては、少なくとも18度の屋内気温を確保しなければならないとのことでした。

名古屋、福井、北海道の入浴事故事例についての数字的比較例を提示していただきながらお話が進みました。実際、この3つの都市の比較は、先生が実際に生活された場所だからというのが興味深かかったです。きっかけは、福井での生活の中で、浴室が非常に寒かったからだそうです（笑）。浴室の屋内温度について、グラフでの比較表を提示され、視覚的に見ることもできました。福井県は、冬場の浴室内の事故が多いそうです。これは、外気温の影響を建物が受けやすいからではないか？とのことでした。反対に札幌市の場合、住宅の基本的な断熱性能が高いからか、1年を通じて事故が急激に増えることはないそうです。しかしながら、札幌市では冬場のトイレ事故が非常に多いそうで、その中でも女性の事故率が高いのが特徴的なのだそうです。その理由は、まだ研究の途中ということでした。トイレは着衣の上で使う場所なので、脱衣室ほどのリスクはないはずで、その原因が究明できれば、またお話をして下さるそうです。とてもミステリーですね。

梅村先生は、この研究を進めるにあたり、お知り合いの家々でのセンサーの設置、また、お家の方を被験者として、着衣の場合や脱衣後の場合の血圧測定など、いろいろなケースでデータを取られたそうです。

そんな中、とても興味深かったのは札幌市の家で、これは最近建設された家ではなく、建築後20年ほど経過した決して高気密の家などではないのだそうです。そんな古い家であっても、脱衣室の温度は福井や名古屋よりも非常に暖かいのだそうです。それはなぜか？北海道の家は、冬場外部に湯沸かし器を設置してしまうと、寒さのために使い物にならなくなってしまうのだそうです。そのため、ボイラーを脱衣室に設置していたり、浴室が住まいの中心部にあることも多いそうです。こちらの地域ではそのようなことはほとんどありえない（家相なども気にされる方も多いですし）のですが、やはり気候や風土というのは、かなり人間の生活に影響を与えているのだということがよく理解できました。

さまざまな側面からお話をしていただくことができ、とても興味深い講演会となりました。このような講演会を、今後、住宅研究会で開催していくことになります。連続環境セミナーにも、1人でも多くの方々にご参加いただけると良いと考えております。

宮坂英司｜
アトリエ創一級建築士事務所

07_アーキテクトcs6.indd 7　15/06/19 17:30

各支部住宅部会の交流、話し合いの場つくる

東海住宅建築ツアー・全国住宅部会によせて

6月7～8日、愛知で全国住宅部会が開催されました。昨年のJIA岡山大会で全国の住宅部会が集まり、年に2度の開催が決まった背景があります。

また、岡山大会では近畿支部の建築見学企画に愛知の住研メンバーが参加したことで、年に2回の交流会を行うこと約束しました。春は東海で交流会、秋には近畿で会うことになっています。

その最初の試みが先日の東海住宅建築ツアーです。東海の素晴らしい住宅作品を見て、夜には懇親会でシッカリ交流も深まりました。

JIA各支部の住宅部会は近畿が最大で120名のメンバー、関東甲信越、北海道が60～70名、愛知は現在50名のメンバーです。その他の地域では、住宅部会がようやく成立しているような状況です。今後、全国住宅部会として開催されることで、各支部のメンバーが増えてゆくことでしょう。住宅にまつわるさまざまな環境を地域性を持って話し合える会議の発足です。

浅井裕雄｜愛知地域会住宅研究会　委員長

東海住宅建築ツアー「そうだ三河、行こう」レポート

今般見学会の案内をいただいた数分後には、申し込みをしていました。紙面などで拝見していても住宅ゆえに見せていただく機会はないと思っていた3物件。しかもつくり手から住まい手に主導権が移った絶妙な時期の住宅を見学させていただく企画に、私だけでなく参加者の多くが魅力を感じ参加していたと感じます。

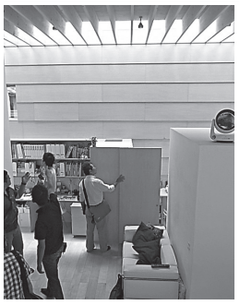
住宅見学を通して尽力いただいた担当者・設計者、住み開いていただいた住まい手の方に紙面をお借りしお礼申し上げます。そして見学後の懇親会で住宅設計をする仲間同士、話に花が咲いたことは申し上げるまでもありません。

近藤万記子｜ホームデコール設計事務所

見学住宅❶　光の郭｜愛知県豊川市

設計：エムエースタイル建築計画　川本敦史氏来場

住宅に立ち入り、設計者の川本氏からお話しを伺う前に玄関先で施主様と雑談し現在の感想をお聞きしました。「僕たちが細かく口出ししたら建築家に設計を依頼する意味がないと思って依頼した。それでいて住んでから余白のある部分は私たちが手づくりで足せている感じ。楽しいですよ。」施主様と設計者の絶対的な信頼感が家を包んでいるような気がしながら見学。9.1mの正方形の家は四方全体から光が漏れるトップライトと小屋梁につつまれて不思議な一体感があります。プライベート空間以外が路地のようなパブリック空間。平面的にはわかっていても、実際に家の中ではこの光の感覚があいまってやさしい家族の空間ができていることは実感してはじめてわかります。また、プライベート空間が外壁面に接していないのを利点とし、外周土間空間は収納やキッチンなど機能的に生かされて住みやすさを感じます。パブリック部のフローリングではなく、この機能的な外周の土間空間にあえて床暖房をいれているのは逆に当然なのでしょう。



上｜光の郭外観
下左｜室内の写真
下右｜外周の土間空間

07_アーキテクトcs6.indd 8　15/06/19 17:30

見学住宅❷ 母の家｜愛知県蒲郡市

設計：ワーク○キューブ　吉元学氏来場

昼食後は水田の中に佇む住宅にお住いのお母様にお出迎えいただきました。軒先高さが1.58mでしたが、小柄なお母様の出入りと風景に溶け込む屋根、また軒先から屋根をつたって土間に落ちる井戸水滴の高さのバランスがここしかないと思わせる個性的な魅力です。おそらく見学者全員が屋根にのぼらせていただき、住宅が周囲の環境とどれだけしっくりかみ合うか身をもって味わいました。住宅の中心に配されたテラスからは水田が一望できて、外部と内部の空間のつながりのポイントになっています。住まい手が生活するうえで関係する「つながり」を、住宅設計で段取りするとこんなことができるのかと実感できました。間取りはミニマムな空間で動きやすいのですが、単調さを感じないのは風景の力と光の力を活用しているからなのでしょう。

そして「住みよいよ。」と見学者に笑いかけてくださったお母様に感謝です。

左｜母の家　右上｜テラスから望む田園風景　右下｜室内の様子

見学住宅❸ ドラゴンコート・ヴィレッジ｜愛知県岡崎市

設計者：エウレカ　稲垣淳哉氏来場

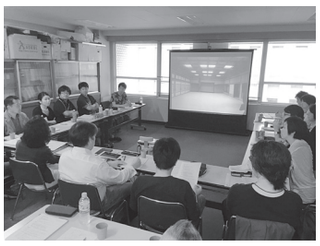
多彩なユニットの組み合わせでできた集合住宅。どういう構成かつかみかねていると稲垣氏からわかりやすく「4号建築物2棟で構成しています。」と解説いただきました。なるほど。サラリーマン世帯、デザイン事務所、ネイルサロン、八百屋などなど多様な入居者がみえるなか、内部も数か所見学させていただきました。ここでも通り道である外部パブリック空間が生活者のセカンドリビングになったり、八百屋の店先になったり、図面だけでは想像できないリアルな生活が営まれていました。路地の魅力のようなものが建物の凹凸からでているので、風の通る居心地のよい外部空間が集合住宅全体を囲んでいました。

左｜ドラゴンコート・ヴィレッジ（テナントの八百屋さん）　右上｜風の抜ける通り道・パブリック空間
右下｜室内の様子

全国住宅部会連絡会議レポート

2015年6月8日9：30～12：00、JIA東海支部会議室にて全国住宅部会連絡会議が開催されました。全国から19名の参加となりました。

1つ目の議題は金沢大会での住宅部会展示です。会場は、金沢学生のまち市民交流館交流ホール、21世紀美術館から徒歩11分です。自然に人が入るような場所ではありませんので、広報が重要課題となりそうです。展示内容や展示方法について、北陸支部の山田さんからの提案をベースに、建設的な意見が交わされました。関東甲信越支部や近畿では模型展を経験していることもあり、押えるべきポイントなどアドバイスがあり、支部を越えて意見交換の場を持つことの効果がしっかりとあったように思います。



住宅部会連絡会議の様子

2つ目の議題は小規模建築の契約書式についてです。現在の「JIA建築設計・監理業務委託契約書（住宅などの小規模建築向け）」は、建築士法の一部改正に伴い、6月24日をもって販売中止となり、今後は3月より「四会連合協定 建築設計・監理業務委託契約書類（改正版）」および「四会連合協定 建築設計・監理業務委託契約書類（小規模向け）」が発行されることの案内があり、それに対しては電子データによる書式販売の希望が出ました。

3つ目の議題では、各支部からの活動報告がされました。会費や活動内容もそれぞれで参考になる点は多々あるように思いました。

最後の議題で今後の全国住宅部会の進め方について話し合い、全国大会でのイベントを定例化していくのか、来年の春の住宅部会は東北で開催はどうかなどの意見がありました。盛り上がりつつある全国住宅部会、今後が楽しみです。

笹野直之｜笹野空間設計

07_アーキテクトcs6.indd 9　15/06/19 17:30

10回目の美術サロン展、来場者300名超

第10回JIA愛知美術サロン展が、4月14日（火）～19日（日）まで、東区の中電東桜会館で開催されました。会期中の来訪者は雨天続きにもかかわらず、310名あまりと盛況でした。

デッサン会への外部からの申し込みが数名あり、公益社団法人ならではと言えます。

毎年個性的と評価をいただいていますが、美術サロンの後継者問題?が近々の課題となってきました。会員の参加をお待ちしています。

田中英彦｜連空間都市設計事務所

会場風景

霊峰富士

純白に雪を頂いた富士山の裾野をいっぱいに広げた姿は威風堂々として、どこから見ても実に美しい。これまでも河口湖や三保の松原、駿河湾の船上などいろいろな方向から描いているが、新幹線の中から描くのも楽しみで、富士山がチラッと見えたころからフェルトペンを走らせ、彼方へ消え去るまで描くのである。今回は、今年の正月、伊豆長岡から箱根へ向うハイウェイパーキングで描いたものである。

神谷義夫｜神谷義夫建築設計事務所

オンフルール

オンフルールはフランスの北部海岸にある小さな港町である。

海の入り江の周りに美しい個性的な建物が並び岸壁にはヨットが停泊している。建物の家並みとヨットが海面に影を映していて美しい魅力的な風景である。この絵は木造2階建ての教会を中心に両側の建物、1階は店舗、2階以上は住まいであろうか。窓に変化のある風景である。

栢本良三｜錦建築設計

伊根の舟屋

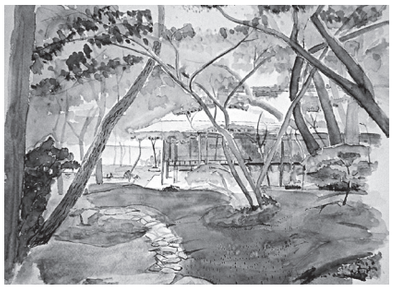
海際まで家が建ち並ぶ日本海沿岸の風景は太平洋側で生まれ育った私にはとても新鮮に感じる。気象庁のデータによると年間潮位差は名古屋3mに対し、舞鶴1m。丹後半島伊根の集落は、地形が入り組んでいるのでさらに潮位差が少ない。1階が海面を引き込んだ舟揚場で2階が居室。静かな入り江に200棟ほどの舟屋が肩を寄せ合いたたずんでいる。

榎戸正浩｜石本建築事務所

伊勢湾台風貯木場はカラッポ

伊勢湾台風は、満潮と重なり猛烈な強風と高波は、天白川と貯木場との仕切りであった石垣でつくられた堤防を900mにわたり一気に倒し決壊させた。丸太が流出し貯牧場はカラッポだ。押し寄せる真っ黒な海水と流木は、名古屋市南区白水小学区（分校を含む）だけで927人もの命を奪った。水が引いた後に貯木場の外に残された丸太。上部は水没している白水小学区。

川窪　巧｜川窪設計工房



八勝館

周りに高層の建物がある中で、その存在や喧騒を一瞬忘れてしまうほど手入れされたもみじの木陰に苔庭を散策。夏の木陰と、このゆったりとしたたたずまいに心奪われた。手入れされ、行き届いた庭の中の散策は気持ちのよいリズムを刻んだ。その中の御幸の間のたたずまいにしばらく時間を忘れていた。

後藤文俊｜アトリエ後藤建築事務所

07_アーキテクトcs6.indd 10　15/06/19 17:30

アイト・ベン・ハッドゥ(モロッコ・世界遺産)

砂漠のオアシス都市ワルザザートから街道を走ると、7世紀、アラブ人の侵入から逃げるため、先住民族のベルベル人がアトラス山脈を越えて築いた、いくつかのカスバ（城砦）がある。最も大規模なものが、世界遺産アイト・ベン・ハッドゥである。丘の斜面に土造りの家々が建てられ、クサル（要塞化された村）には、現在も少数のベルベル人が居住している。

田中英彦｜連空間都市設計事務所

阿蘇火口Ⅱ

今回はデッサン2点を含む6点を出展、F50号の作品には阿蘇の火口を描いた。現地の火口まわりは常に噴出している水蒸気で全く見えない。そこで帰ってからインターネットなどで情報を集め、自分なりに火口壁をデザインした。今年初めに開催された水彩協会展に出展し、愛知県美術館に飾られたものだが、満足できず、大幅に加筆して完成させた。

福田一豊｜福田建築事務所

デッサン会の楽しみ

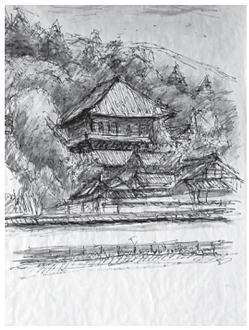
サロン展主催の2カ月に1回開かれているデッサン会で描いた作品。最近、色を使ってもっと楽しく表現したいと思うようになった。初めて、パステルの黒とピンクを使ってみた。20分の限られた時間の中で、とにかく集中して描いた。講評会で、神谷義夫先生が満足そうに指で丸を作ってサインを送ってくださった。うれしさがこみ上げてきた。

山田尊久｜山田尊久建築設計事務所

天燈鬼・竜燈鬼

興福寺の天燈鬼・竜燈鬼を描いた。二体で一対となっており、赤鬼・青鬼、阿形・吽形、動と静に表現されている。それぞれ燈籠をかかげており、暗いお堂の中でほのかに明かりが燈っているかのように見えればと、像の周囲の色を落とした。昨年は三千院のわらべ地蔵を描いたが、今年は鬼をと表記の像とした。鬼とはいえ何とも言えぬ愛嬌のある姿である。

山田正博｜建築計画工房



雨上がりの東大寺二月堂

この作品は、昨年の晩秋に企画したスケッチ旅行での作品です。

正倉院を見学する予定でしたが、休館だったので二月堂へ行く順路の途中からのアングルです。ちょうど降っていた雨も止み、空気が澄み切って、二月堂の遠景が周りの緑に包まれている景観に、大変感動し、思わずイーゼルを置いて一気に描きました。スケッチしている最中、大変多くの旅行者に見ていただき、色々な感想を、英語・中国語でいただきました。

吉川法人｜
吉川法人＋都市建築デザイン室

参加者募集

◉ **参加申込先**

JIA東海支部事務局まで（幹事田中）
MAIL：shibu@jia-tokai.org
TEL：052-263-4636
FAX：052-251-8495

◉ **活動内容**

年１回美術サロン展、スケッチ旅行。
デッサン会約2カ月に1回（支部会議室にて）

◉ **対象**

支部会員

07_アーキテクトcs6.indd 11 15/06/19 17:30

JIA東海支部新委員会
「子どもの建築学校委員会」設立に寄せて

白鳳小での忘れられないシーン

JIA愛知地域会青年委員会が子どもたちを対象とするワークショップをはじめて開催したのは2006年2月13日です。尾張旭市立白鳳小学校の6年生84名を相手に、「割り箸に乗ってみよう！」という体験型の建築教室を3～4時限目に開催しました。委員会メンバーのみなさんに私どもの研究室の学生が加わって、総勢24名が小学生の輪の中に入りました。グループごとに割り箸108本を輪ゴムでつないで、構造合板を支える脚をつくり、何人乗れるかを競いあうプログラムです。参加者同士のゲームを通じて、楽しみながら「建築の構造と形」への興味関心を引き出そうとするものでした。

青年委員会ではじめて取り組む建築教室ということもあり、本番まで何度も議論を重ね、実験も繰り返しました。その甲斐あって、子どもたちの反応は予想以上のものでした。開始時には、青年委員会のメンバーは明らかに緊張していました。しかし、終了間際には子どもたちと一緒になって笑いの渦の中にいました。子どもたちが建築ワークショップに主体的に参加することができたかどうかは、その盛り上がりの様子を見ればすぐわかりました。

それまでにも、別の機会の建築ワークショップで、子どもたちがよろこぶ姿を何度も目にしてきましたが、そのとき最も印象的だったシーンはワークショップではなく、その後不意に訪れました。用意したプログラムを無事終了し、安堵感に浸る中、校長先生のご配慮で給食をいただいたときのことです。日頃は地域で建築家として仕事に取り組むJIAメンバーが、すっかり少年時代に戻って、給食を頬張っている姿が強烈に目に焼き付いたのです。

ものをつくることが大好きだったあのころ。あの時代があっての現在。先ほどまでの子どもたちの嬉々とした姿に、建築家たちは自らの子ども時代を重ねたに違いありません。建築の面白さ、重要性を知るものこそが、責任を持って次世代の教育にかかわることができると実感した瞬間でした。

白鳳小学校での第1回ワークショップ
（2006年2月）

ワークショップ後に給食を食べるJIA青年委員会メンバー
（2006年2月）

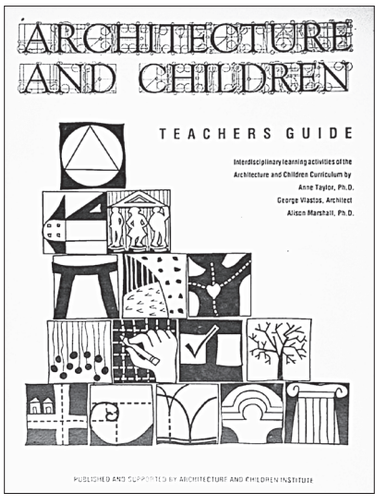
構築環境教育「建築と子供たち」

欧米においては建築家自身が、子どもたちに建築を学ぶ機会をつくることが任務として認識されています。建築家は、豊かな都市環境を構築するために自己能力を向上させるのみでなく、市民、とりわけ次世代を担う子どもたちに構築環境（Built Environment）の意味、重要性について伝える努力をしなければなりません。優れた建築家は、優れた環境をつくり上げることができるというだけでなく、優れた環境を見分けることの重要性を市民に伝えることができます。

さて、小中学校向けの建造環境教育であるBuilt Environment Educationプログラム「建築と子供たち：Architecture and Children」は、1990年、稲葉武司氏により日本に幅広く紹介されました。「Architecture and Children」は、ニューメキシコ大学の教育学者であるアン・テーラー教授が提唱されたものです。生活の身近にある建築や都市を通じて子どもたちの創造性、問題解決力を豊かにする体験的カリキュラムのことです。決して建築家の早期教育ではありません。日本建築学会は、アメリカからテーラー教授を招き「建築と子供たち」の展覧会とシンポジウムを各地で行いました。建築という専門的な領域を、子どもをはじめ幅広く市民全般に伝え、建築文化の理解と啓蒙を目的としていました。

一方、建築学会とは別に建築家団体の

07_アーキテクトcs6.indd 12 15/06/19 17:31



ARCHITECTURE AND CHILGRENの
教師用ガイドブック

国際連合であるUIAは、1999年の北京大会において「UIA建築と子供たちワークプログラム：UIA Architecture and Children Work Program」のスタートを決定しました。世界中の建築家が子どもたちの建築・都市教育を支援することを目的としたプログラムです。これを受けて2011年開催のUIA東京大会では、子どもを対象にした優れた建築教育活動を「UIA Golden Cubes Awards」として表彰することを公式行事としました。私も、実行委員長である稲葉氏よりお誘いを受け委員会のメンバーに入れていただきました。元岡展久先生（お茶の水女子大）、長澤夏子先生（早稲田大学）のお二人のご尽力で、1回目はパーフェクトな運営がなされました。

JIAゴールデンキューブ賞 2013/2014実行委員会の業績

JIA東海支部は、2013年にゴールデンキューブ賞2013/1014実行委員会を立ち上げました。東京大会に引き続き、2014年の南アフリカ・ダーバン大会に向けた2回目のゴールデンキューブ賞の国内審査の任務を遂行するものです。JIA全体の委員会活動の見直し再編の時期でもあり、本部ではなく、東海支部で引き受けることになったものです。国際的にも重要である任務の一部を引き受けるということもあり、このことに精通した外部メンバーの支援を受けながらの運営となりました。

その甲斐あって、日本からの推薦作品である「建築と子供たちネットワーク・仙台」による「子供たちが応援する歴史的建造物の震災復興」がダーバン大会で組織部門優勝の栄誉に輝きました。日本の活動が世界で評価されることで、そのレベルが証明されましたし、何よりも自信につながりました。仙台のみなさんは、日本における「建築と子供たち」活動の先駆者でもあり、当然の結果であったとも言えます。その後、委員会は全応募作品を掲載した作品集を作成しました。

2014年には、名古屋都市センターで「こどもの建築活動発表交流会」を開催し、全国での実践活動者による情報交換と交流を大いに促しました。

ゴールデンキューブ賞2013/2014作品集

子どもの建築学校委員会

ゴールデンキューブ賞にかかわる作品募集と審査の任務が終了し、JIAゴールデンキューブ賞2013/2014実行委員会は解散しました。引き続き、新しいメンバーに加わっていただき、「子どもの建築学校委員会」を立ち上げ本来の子どもと建築活動の実行と、同種の活動を展開する各種団体との連携を図ることにしました。「子どもの建築学校」としたのは、2つのルーツをもつ「建築と子供たち」と差別化をしたかったことと、活動内容が直感的に理解できるネーミングにしたかったという理由です。まずは、来る9月に金沢で開催されるJIA大会において、全国レベルでの情報交換の場づくりに臨みたいと思います。

そして、建築家として、ものの見方や考え方、生活と建築の関係などを子どもたちにわかりやすく伝えると同時に、屈託のない子どもの感性から学びの触発を得たいと考えています。どうか、気軽にご参画ください。

上｜こどもの建築学習発表交流会でのワークショップ（2014年11月）
下｜こどもの建築学習発表交流会の記念写真（2014年11月）

鈴木賢一｜
名古屋市立大学大学院芸術工学研究科・
子どもの建築学校委員会委員長

07_アーキテクトcs6.indd 13 15/06/19 17:31

第22回JIA東海学生卒業設計コンクール2015 公開審査結果

今年で第22回となるJIA東海学生卒業設計コンクールの公開審査が、5月30日（土）、金山の名古屋都市センターで開催されました。審査員長に法政大学の赤松佳珠子先生を迎え、一次審査選出10作品を、6人の審査員で公開審査しました。

まず、各10分（プレゼン4分＋質疑6分の配分）で、プレゼン・質疑を行いました。休憩後、公開審査に入りました。1回目は、各審査員がよいと思う作品を5作品選出し、2回目は、集計が1点のみの作品を除いた7作品から、各審査員が3作品を選出しました。そして、1回目の集計と2回目の集計の合計で、高得点の3作品から金賞1作品、銀賞2作品が選出されました。そして、残りの作品から3作品が佳作候補作品として選出されました。下記に各賞入選結果を記します。また、上位の6作品が、6月の下旬に開催される全国卒業設計コンクールに推薦されます。

審査後、赤松先生の記念講演会が開催されました。大変多くの聴衆者の中、「いきいきとした場所のつくり方～最新作より～」というテーマで、先生の事務所での近作の作品や、計画中の作品の紹介などをしていただき、大変盛りだくさんの内容でした。

なお、選出された作品の講評、及び記念講演会の詳しい内容は、8月号で紹介させていただきます。

上｜会場の様子　中｜審査の様子（審査委員の方々）　下｜赤松審査委員長と入選者

吉川法人｜東海学生卒業設計コンクール特別委員長・
吉川法人＋都市建築デザイン室

金賞　「ふるまいの共生ー花祭りの伝承風景を紡ぐー」
杉岡　敬幸（名古屋工業大学工学部建築・デザイン工学科）

銀賞　「余韻ある風景」
藤田　恭輔（名城大学理工学部建築学科）

銀賞　「まちの学び舎ー埋もれた外堀の再認識」
下釜　健吾（名城大学理工学部建築学科）

佳作　「賑わいを運ぶ船」
栗田　真佑（名古屋市立大学芸術工学部建築都市デザイン学科）

佳作　「町に寄生する工場」
榊原　崇文（名古屋工業大学工学部建築・デザイン工学科）

佳作　「入鹿産想-はじまりの住処」
朝比奈　沙江（椙山女学園大学生活科学部生活環境デザイン学科）

入選　「ガソリンスタンド2.0」
杉山　慎治（大同大学工学部建築学科）

入選　「景承されし浜の景感」
中澤　真平（名古屋工業大学工学部建築・デザイン工学科）

入選　「絶望が身体に馴染む」
小林　洸至（名古屋工業大学工学部建築・デザイン工学科）

入選　「都市の水屋へ：都市防災公園と共生する線形都市」
徳森　寛希（名城大学理工学部建築学科）

07_アーキテクトcs6.indd 14　15/06/19 17:31

「JIA東海支部大会2015」に向けて

支部大会実行委員長　浅井裕雄

昨年の秋より支部大会に向けて準備を進めてきました。開催場所は、名古屋で行うことにします。

戦後、経済発展を続けてきた名古屋やその他の都市は、産業構造の変化や人口減少（名古屋は微増）もあって、下り坂の変化を強いられています。さらにエネルギーの変換点や新しい技術の発達により、私たちの生活を支えてきたインフラや大きなスケールの建造物が50年から60年で不要になってゆきます。

成長しない時代を迎えた都市は、減少や統合、縮小といった今までとは逆向きの変化に直面します。「JIA東海支部大会2015」のテーマは「都市の多生（たしょう）」。多生とは、「何度も生まれ変わること」「何でも生かすこと」という意味です。

都市の表層は時代を反映しながら生まれ変わります。しかし、都市の骨格は100年ぐらいの間に役割を終えて生まれ変わる必要性が見えてきました。大会では名古屋を上からと下から眺めながら、都市の生まれ変わり方を考えようと思います。

下から眺める名古屋ツアー

ツアーは、名古屋港から屋形船に乗って中川運河を往復、再び名古屋港から堀川を上り名古屋城へ向かいます。80年ほど前につくられた中川運河は、そのころ工業都市を目指していた、名古屋において重要な物流手段として建設されました。運河の利用状況は陸上輸送の発達から昭和39年をピークに減少、現在の利用状況はピーク時の2%程度です。その生い立ちから運河沿いは倉庫などが目立ち、水辺に開かれた空間とは言いがたい環境です。

また、堀川はさらに古く、名古屋城を築城するために徳川家康によって水路として掘削されました。さらに、堀川から上陸し、名古屋城のお堀の石垣改修現場を見学します。400年前の土木技術や近代の産業インフラから名古屋のまちの未来を考えるツアーです。

名古屋を上から眺める

支部大会の会場は名古屋テレビ塔です。築60年、「テレビ塔」の愛称で呼ばれ、名古屋のシンボルです。テレビ塔は地デジ化に伴い、電波塔の役目を終え、次の役割を考えるときがきています。これらの場所はそれぞれ、都市の機能になくてはならないモノでした。都市における新陳代謝は、住宅レベルから大きな土木レベルまでさまざまに生まれ変わる中で、建築家の役割はさらに重要と考えます。

大会では建築家内藤廣さんにお越しいただき、都市の未来を語っていただき、シンポジウムでは、内藤廣さんと涌井史郎さん（岐阜県立森林文化アカデミー学長）による都市の生まれ変わりを議論していただきます。この機会に、日本のまちが将来どうなるのか考えてみましょう。

JIA東海支部大会2015 大会プログラム

日程｜11月13日（金）～14日（土）
メイン会場｜名古屋テレビ塔4F「ザ・パークバンケット」

1日目―11月13日（金）

■名古屋下からツアー
時間｜10：30～15：30
会場｜中川運河・堀川／名古屋城
参加予定｜40名（JIA会員・ジュニア会員）

■基調講演
テーマ「時間から考える都市計画」・内藤廣 氏
時間｜16：00～17：00
会場｜名古屋テレビ塔４F　ザ・パークバンケット
参加予定｜100名（JIA会員・一般・学生など）

■シンポジウム
内藤廣氏（建築家）＋涌井史郎氏（造園家・岐阜県立森林文化アカデミー学長）＋秀島栄三氏（名古屋工業大学教授）（調整中）
時間｜17：00～19：00
会場｜名古屋テレビ塔4F　ザ・パークバンケット
参加予定｜100名（JIA会員・一般・学生）

■レセプション
時間｜19：30～21：30
会場｜名古屋テレビ塔4F　ザ・パークバンケット
参加予定｜100名

2日目―11月14日（土）

■長者町「ゑびす祭り」JIAイベントブース
ダンボール迷路・ダンボールカード
時間｜午前

■JIA東海支部設計競技
時間｜2次審査　12：30～17：00
ゲスト審査委員｜西沢大良
審査委員長｜南川祐輝
審査委員｜吉村真基、山田浩史、松浦健治郎、八木紀和

07_アーキテクトcs6.indd 15　15/06/19 17:31

日本建築家協会の「ストロングポイント」

静建企画設計一級建築士事務所　杉山貞利

去る2月の中ごろに静岡県の危機管理課より電話があり、日本建築家協会の災害に対する取り組みや活動について会議の後に講演してくださいとの依頼がありました。静岡県では弁護士、司法書士、建築士などの11団体で東海地震対策士業連絡会を結成し15年を経ていますが目立った活動はせず継続してきました。

昨年、その会合の中で静岡県の防災監と話す機会があり、日本建築家協会の災害支援活動を話したところ担当者を紹介され、後日資料持参でうかがいました。話し合いの中で県は市町村からの相談に応じる立場で、実務に関しては行政庁が行う行為で、直接話して下さいとの見解で終わりました。

その後返事はなく雑用に忙殺され忘れかけていましたが、今思うに担当者は静岡県内35市町が集まる機会を模索していて、それが年度末の今回の講演話につながりました。主題は別要件でしたが終わりの30分に話す機会を得て、過去の新潟中越地震の長岡市への行政支援から、東日本大震災の千人にのぼる会員のボランティア派遣、最近の長野県神城断層地震による白馬村などへの支援活動を話しました（※写真1）。

会議の終了後担当者にお礼を申し上げ、静岡地域会の現状を述べ、なぜ日本建築家協会に機会を与えていただいたかを問うと簡単で明瞭な答えが返ってきました。「貴団体は全国に支部を持ちネットワークを活用して東日本大震災に対応されている。」「建築士会など他団体の活動も知っているが、震災が起きたときはそういった団体を含め県民すべてが被災者となる。他県に応援を求めるとき、各支部・地域会ごとに強い横のつながりを持つ貴団体を市町村に紹介するのは当然です。積極的に各行政庁と取り組んでいただきたい。」と励ましの言葉をいただきました。

日ごろ他団体の会合で会員数や規模において私自身引け目を感じてきましたが、社会に目を転じれば日本建築家協会の目指す社会貢献活動は正しく、むしろ他団体に対する「強み」であることが認識され重圧がとけた思いに至りました（社会的な評価は会員数や組織の大小ではない）。

今後は行政庁と話を進め、平時の取り組み、連携から日本建築家協会との災害支援協定を結ぶ活動につなげたいと思います。幸いにも本年より東海支部に災害対策委員会ができ、各地域会の方々と協議し情報の共有化を行いたく思います。

❖

さて、東日本大震災の被災地では復興が進み東北支部の会員の奮闘が続いています。高台移転に関しても基盤整備が終わり、早いところは復興住宅の建設の段階に至っていますが（※写真2）、新たにまちづくりの問題点が浮かび上がり、公共と公平について考えさせられる小さな写真の公園に出会いました（※写真3）。この公園は誰が利用するのか入りにくそう？所有者すなわち行政が管理しやすい公園の典型的な例かと思います。

地元が利用しやすいことは他地域から見れば利用が妨げられ公平ではない理屈となり、誰からも歓迎されないものができてしまう、建築家として考えなくては。個々の物件の設計だけでなく地域の公共空間への関心を持ち、役所任せにせず公共のあり方を論議する訓練を重ね、建築家が役人や市民を説得する理論を備えることが今後必要になると思います。

一方で被災地の将来の見通しを聞く場がありましたが、進行中の復興住宅では高齢者の入居率が高く数年で空き家となることが予測され、完成とともに住宅の改造ができる設計の柔軟性が要求されます。地域を持続させるためには若者や被災者以外が入れる入居条件の緩和の問題や、災害により地域の高齢化の進行が早くなり、住宅の問題だけでなく医療や福祉をいかに取り込むかが現実の課題となっているところでは将来の見通しなど複雑で語り切れません。被災地にかかわらず社会共通の問題です。

しかし直接設計に携わり行政の担当者、被災者、社会の要求に応じている建築家の話を聞き、最先端の場で今何が起き何を考えたかそのプロセスを知ることは、わが地に災害が起きたときの写し絵となり、これからも私なりの定点観察とともに注視していきたいと思います。

写真1：静岡県危機管理課での講演の様子（2015年2月26日）

写真2：完成した復興住宅

写真3：小公園の写真

07_アーキテクトcs6.indd 16　15/06/19 17:31

埋設配管の変形特性の理解と建築物導入部

名古屋大学減災連携研究センター　寄附研究部門教授　北野哲司

2013年11月号から始まった「東海の減災を考える－名古屋大学減災連携研究センターからの提言12回シリーズ」も最終回を迎えた。今回は、建築設備とも関連する“埋設配管”を話題に取り上げる。

2014年長野県北部の地震で出現した地表地震断層

平成26年11月22日に長野県白馬村東部を震源とする「2014年長野県北部の地震」（M6.7、最大震度6弱）が発生した。この地震は、糸魚川－静岡構造線の北部に存在する神城断層の一部と北側延伸部で発生したと考えられている。また、本地震では、断層による変位が地表に出現する「地表地震断層」が確認された。**写真1**は、白馬村塩島地区に出現した左横ずれ逆断層タイプの地表地震断層である。地表地震断層の変位量は、道路部で垂直方向約0.9m、左横ずれ方向約0.3mであった。

地表地震断層変位を受けたが健全であった水道ポリエチレン管

同地区（白馬村塩島地区）では、地表地震断層と交差して水道ポリエチレン管（PE管、呼び径75A）が埋設されていた。**写真2**は、平成27年5月8～9日に行われた当該地点の掘削調査時に撮影した写真である。水道ポリエチレン管は、座屈・樹脂白化現象などは確認されておらず、縦断方向の配管のたわみ性や樹脂の応力緩和性で地表地震断層変位を吸収している。地表地震断層は、既往地震でも報告されているが、地表地震断層を横過する埋設配管を掘削調査した事例はほかにはなく、本事例は貴重で参照すべきであろう。

建築物導入部の埋設配管損傷事例と対処

建築物導入部の埋設配管は、細心の注意を払い耐震設計を行う必要がある。**写真3**は、建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）に収録されている建築物導入部における埋設配管の損傷事例である。建築物導入部のうち、建築物貫通部は配管の固定部となる。よって、建築物周辺の地盤が沈下すると、埋設配管も追随して沈下するため、建築物導入部には大きな変形・ひずみが発生する。そのため、建築設備耐震設計・施工指針では、地盤の変状により、建築物と周辺地盤との間に変位が生ずる恐れのある場合には、建築物導入部の配管などに変位吸収が可能な適切な措置を施すことが規定されている。

建築物導入部の埋設配管耐震設計から“東海の減災を考える”

図1は、建築物導入部埋設配管において、地盤沈下が発生した場合の埋設配管挙動解析例である。両配管系共に、使用した配管材料（種類・個数・寸法・材質）は同じであるが、解析例から明らかであるように、最大ひずみが発生する箇所が異なる。

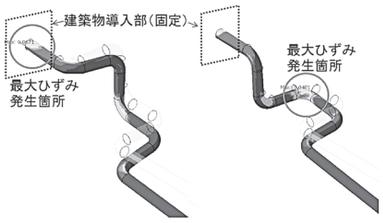


図 1：建築物導入部埋設配管の地盤沈下時挙動解析例
（変形前配管：スケルトン表示）

このように、埋設配管の場合、配管材料の組合せや寸法・管剛性によって、変形性能（ここでは、地盤沈下によって生じる配管内相対変位を吸収する能力）が大きく異なることを知っておくと良い。埋設配管をはじめとする地中構造物の場合、更新や補強することが、時間と費用の関係から困難な場合が多い。よって、新設時に、地盤沈下などにより相対変位の発生が懸念される場合は、変形が生じても構わない部位で分散負担させる設計を行っておくことが有効である。

これまで述べてきた事項も含め、常日頃から地震防災を意識して建築物の設計に取り組むことが、“東海の減災を考える”上で重要である。

写真 1：白馬村塩島地区に出現した地表地震断層
（日本地震工学会調査団報告書に加筆）

写真 2：地表地震断層を横過するポリエチレン管の掘削調査

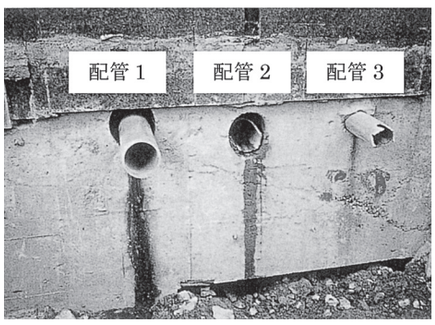


写真 3：建築物導入部の配管破損事例
（建築設計耐震設計・施工指針に加筆）

07_アーキテクトcs6.indd 17　15/06/19 17:31

「世界劇場会議名古屋フォーラム2015」参加レポート

テーマ「劇場の天井は大丈夫か?」

石橋 剛 | 石橋修建築設計室

5月29日、愛知県産業労働センター「ウインクあいち」にて「世界劇場会議名古屋フォーラム2015」が開催された（主催：NPO法人世界劇場会議名古屋）。全体としては、Session-1「劇場の天井は大丈夫か？」とSession-2「劇場で働きたい！」の2部構成であったが、ここではSession-1の内容についてレポートしたい。

テーマである「劇場の天井は大丈夫か？」であるが、いわゆる「特定天井（※1）」がテーマとあって、会場はほぼ満席であった。この特定天井だが、国交省告示771号「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」が2014年4月に施行され、本年度からは建築物の定期調査報告においても、特定天井が調査項目に新たに加わるなど、劇場をはじめ多くの施設が対応を迫られている。とくに、既存の特定天井（そのほとんどが「既存不適格」となる）の安全性をどう確保していくのかといった課題については、事例も少なく多くの設計者が手探りの状況ではないだろうか。

はじめに、進行役の静岡文化芸術大学の松本茂章氏より会の趣旨説明があった。東日本大震災で被災した劇場の視察経験等から、多くの劇場が避難所として使われていたが、ホールの天井は被災して使えず、ホワイエのみが避難所となっていたといった話があった。

つぎに、1人目の講演者、日本大学の本杉省三氏である。本杉氏からは、劇場・ホールの天井問題の背景についてわかりやすく整理された話が聞けた。それによると、多くの施設が1970年代に建設され老朽化していること、大地震に対する備えがされていない施設が多くあること、自治体の収入減により維持管理に潤沢な予算がないことといった課題があるという。また、震災後の全国の劇場の被害調査についても報告があり、建物躯体や舞台設備、建築設備など、天井に限らずさまざまな箇所の被害があったという。そのような背景の中、単にホールの天井をどうするかという問題ではなく、施設の活動全体を考えるきっかけとしていくことが大切であるという話が印象に残った。

本杉省三氏

野島秀仁氏

つぎに、2人目の講演者、鹿島建設の野島秀仁氏である。野島氏からは、「既存コンサートホールの居ながら天井耐震改修」と題して、サントリーホール大ホールの耐震改修について事例報告がされた。

改修するうえで前提条件となったのが、開館しながら工事を行うこと（1～2年先まで予定が決まっており、閉館すると利用客が減ってしまう）、音響性能に影響ないこと（音響的にも名ホールといわれており、仮に良くなったとしても評判に影響する）、安全に工事を行うこと（溶接などは使えない）といったことであり、さらに、設計の途中で771号告示の技術基準適合がもとめられ、特殊計算ルートにより大臣認定を取得したという（既存天井では第1号であり、この1年ではこの1件のみ）。

天井補強の概要であるが、既存の天井面より1.5mくらいの高さのところへ鉄骨でぶどう棚をつくり、そこから耐震ブレースを設置するというものである。工事にあたっては、すべて夜間工事であること、既存点検口からの人力搬入のため部材を最大2.4mとすること、ビス1本でも天井内に忘れた場合は音響に影響するためすべての搬入部材数量をチェックしたことなど、聞けば聞くほど大変な工事であることがうかがえた（※2）。

※1　特定天井とは（大まかには）、天井高さが6m超、水平投影面積が200㎡超、単位面積質量が2kg/㎡超の、人が日常利用する場所にある吊天井のこと。

※2　サントリーホールの天井改修については『建築技術』2015年6月号の野島秀仁「既存コンサートホールの居ながら天井耐震改修」（P.138）に詳しい。

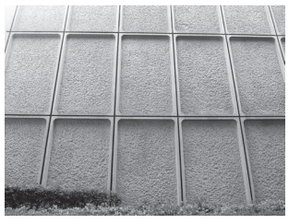
07_アーキテクトcs6.indd 18　15/06/19 17:31

保存情報　第164回　JIA愛知保存研究会

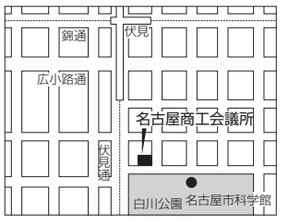
データ発掘（お気に入りの歴史的環境調査）

名古屋商工会議所ビルディング

南側正面


側面詳細

エントランスロビー



■発掘者コメント

旧愛知県美術館や丸栄百貨店など、モダニズム建築の新鮮な美しさに感化された自分が建築学科に進み、初学生対象の建築学序論の講義で柳澤忠先生から渡された「見ておくべき建築リスト」の中にこの建物がありました。近くの圓堂政嘉の山口銀行も良かったですが、このビルの端正な外壁の姿が印象的でした。その頃は外観とエントランスのみの見学でしたが、統一されたモデュールで構築された外壁のPCパネル（ショックベトン:ベイジュの花崗岩、小叩き仕上げ）、大理石貼りのエントランス前庭、F.L.ライトを彷彿するホールの天井照明が印象的でした。

1990年代に入りBCS建築賞のその後を取材する機会があり、建築主が建物の維持管理に努めている姿勢に感銘を受け、価値を再認識しました。今回も寄稿を機会に再訪したところ、BELCA発行の『オフィスビルの戦略的な改修企画』の書籍に、「メンテナンスを重視した設計がなされている長寿命ビル」として掲載されていることを知りました。熱源、空調・給排水衛生設備、OA化対応、内外装の手入れなどを継続されています。材料も現在では入手できない味わいのあるものばかりです。建物の管理やテナント募集を担う若き担当者からは、バランスの良い構造計画で現在の耐震基準を満たし、白川公園の緑濃い景観が楽しめるビルとして、誇りに思っていることを聞かされました。

この時代のビルが次々と喪われている現在、単なる建築保存で懐かしさを偲ぶだけでなく、継続的な活用策を探ることが、専門家としてのわれわれに求められていると思います。

所　在　地：名古屋市中区栄2-10-19
建　設　年：昭和42（1967）年
大規模改修年：平成8（1996）年
敷 地 面 積：2,804㎡
建 築 面 積：2,192㎡
延 床 面 積：25,565㎡
構造・規模：SRC造、地下2階、地上11階、塔屋3階、軒高41m、最高高さ53m
設　計　者：日建設計工務（現:日建設計）
施　工　者：大林組、竹中工務店
参 考 資 料：建築業協会編、谷口元（分担執筆）『BCS建築賞受賞作品ガイドブック』新建築社、pp.74,1993/建築・設備維持保全推進協会編『オフィスビルの戦略的な改修企画』pp.136-139,2008

谷口　元

データ発掘（お気に入りの歴史的環境調査）

圓福寺観音堂

山門

観音堂

『尾張名所図会』

南西からの全景（図会と同じ方向より）

■発掘者コメント

圓福寺は、春日井市高蔵寺ニュータウンの藤山台西端部にある。神仏混交の明治初めまでは、山の斜面に圓福寺と上の白山神社が一つのものとして祀られていた。1964年ニュータウンの造成工事が始まり、周辺は区画整理が進んで様相が一変してしまったが、圓福寺と白山神社の敷地だけは手つかずで残された。そのため2万平方メートルの敷地は、ニュータウンにあって貴重な、緑豊かな小山として残ることになった。

養老7（732）年開創と伝えられる古刹で、1270年あまりの歴史を持ち鎌倉、室町時代には七堂伽藍、麓には十二坊を構えたといわれる。観音堂に端を発し、それに付属した寺院として成立したものと思われる。天正年間（1573～1592）の火災により多くが焼失したらしい。

観音堂は、山の上部、白山神社の下にある。明暦3（1657）年の棟札銘がある。寺の記録によれば、長年の間にたびたび修理、改造が行われてきたが、直近では昭和55（1980）年に修復工事が完了した。構造は単層1間向拝付、桁行3間、梁間4間、銅版葺き（修理前は桟瓦葺き）、寄棟造りで、優美な姿を見せている。春日井市にある近世初頭寺院建築の代表とされる。

ニュータウンができるまでは『尾張名所図会』[明治13（1880）年発行]の木版の挿絵に見えるそれとあまり変わらぬ姿をとどめていた。『圓福寺遺芳』に記されている。現在、白山神社は正月の初詣には多くの人が訪れ、行列ができるほどにぎわっている。長く春日井市熊野町にある密蔵院（多宝塔は重要文化財）の末寺であったが、現在は天台宗別格本山で、比叡山延暦寺末寺となっている。

所在地：春日井市白山町9-1-10
構　造：木造平屋
建設年：明暦3（1657）年
指　定：春日井市指定文化財
　　昭和51（1976）年3月19日
参考資料：『春日井市史』発行-春日井市、昭和38（1963）年11月発行
『圓福寺遺芳』監修者-小島廣次、長正統・編者-太田正弘、昭和59年3月発行

山上　薫｜山上建築設計

07_アーキテクトcs6.indd 19　15/06/19 17:31

「正会員を登録建築家に！」会員規程改正へ

本部理事・東海支部長　石田　壽

第5回理事懇談会が4月17日13時30分より、会長以下、理事20名（3名欠席）、監事1名（1名欠席）、事務局3名、オブザーバーとして次年度理事候補者4名が出席し、WEB方式会議で開催された。

【議題】

1. 建築家資格制度について（会員規程改正案など）

・大澤委員長による検討課題と方針（案）の説明
この理事懇談会で了承されれば、次回理事会に諮り総会議案としたい。
公益社団法人法上、義務化には定款改正が必要であり、今回は努力義務に留め会員規程第3条に5項を付加し、「正会員は別に定める建築家資格制度規則によって、建築家認定評議会による登録建築家資格の認定を受け、建築家登録認定機関に登録するものとする。」を付け加える。努力義務であることから、会費として更新手数料を徴収することはできないため、現行のままとする。但し自主申請をやめ機械化を図ることで事務局の手間を省き、更新料を3,000円／年とするなどの説明があり、協議に移る。

・この案では現状と大きな差はなく、意識が変わらない骨抜きの内容では？

→会員規程に記載することは、かなりの影響力があると考える。

・入会手続き上、TK登録が先でその上で正会員になることが本来であるが、認定が年2回では逆になることもある。

・TKの存在意義を明確にしたい。正会員の資格要件を公益法人としてきちんとし、UIA基準に合致するようにすれば、それでよいのでは？

→公益を担保することは正会員資格でよいが、国家資格へ向けての運動をやめてしまうわけにはいかない。

・TKの会員が減少傾向にある中、TKの魅力をアピールし促進キャンペーンを行ってほしい。

・「JIAアーキテクト」の呼称は「JIA建築家」としてはどうか？

・落伍者を出さないためにもTK登録料（15,000円）、更新料（3,000円／年）を今回に限り無料にしてはどうか？

→機械化に費用がかかるので無料とはいかないが検討したい。（本会で機械化の費用を出すべきとの意見あり）

・TK登録を努力義務とする中で、「将来は・・・義務化も」という曖昧な表現でなく、義務化すると明言しては？

・なぜ今回定款改正まで持ち込めないのか？

→実施猶予期間2年の中で定款改正をする予定。

2. 小規模建築設計・監理業務委託契約書について（JIA小規模契約書）（森副会長）

・天野民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員会委員から、四会連合とJIAの小規模約款の比較対照の説明がある。
JIAの約款は改正されていないため、各条項にわたり規定が不十分な部分がある。
日事連のHPで閲覧できるし、ダウンロードも可能。但し委託書及び約款はDL不可。各団体で販売した売り上げの一部が各団体へ入る。建築士会の約款は廃止の方向。

・同じような契約約款があっても紛らわしいので、JIA小規模約款も廃止の方向で検討する。

3. 「JIA建築家大会2016」開催について

・上浪関東甲信越支部長より報告があり、支部大会を初めて開催するに当たり全国大会を兼ねることは、とても難しいとの判断に至った。そこで近畿支部に打診しお願いをした。

・近畿支部松本支部長より、支部役員会に諮り了承を得たので、京都・大阪・神戸を対象として考えている。今はメイン会場を探している段階であるとのこと。

4. 業務進捗状況、報告

・「JIA建築家大会2015金沢」について
近江北陸支部長より日程案の報告あり。

・委員会規程改正版（理事会承認済）報告
上浪総務委員長より既承認済の委員会規程の報告あり。第15条（委員の定数）を定める。

・規程類についての報告
資料1-2の条文について表現を現行条文の太字にならうとのこと。

「福岡市都市景観賞」などについて

・角銅九州支部長より福岡市都市景観賞についての報告あり。
東京建築設計厚生年金基金後継制度について報告

・筒井専務理事より報告あり。

5. その他

・次年度理事候補者にオブザーバー出席しての感想と意見をいただく。

・松本近畿支部長より、今度の総会にて大阪地域会の発足を承認する予定であり、今後大阪地域部会は部会として活動を行うとの報告。

07_アーキテクトcs6.indd 20　15/06/19 17:31

会員規程改正を含め総会議題を整理

本部理事　鳥居 久保

第226回理事会は2015年5月12日（火）13時30分～16時30分まで建築家会館1階大ホールで行われた。出席者は会長以下、理事20名、監事2名、事務局3名、欠席理事4名。

【審議事項】

1.入退会承認の件

1）新規入会希望：正会員8名、準会員：専門1名、ジュニア1名、協力会員：個人1名、法人3名　種別変更：正会員→シニア2名　退会希望：正会員9名、法人協力3名

以上、承認。

2）会員数4,068名（5月12日現在）

2.会員資格喪失者承認の件（事務局）

・正会員54名、法人協力会員3社の資格喪失の処分が決定。（未納が2年を超えた者。3月までに納入勧告するとともに、今日の理事会までの支払いの通告をした）

3.委員会委員委嘱承認の件（筒井専務理事）

・総務委員、広報委員の委員委嘱を承認した。

4.全国会議議長、委員承認の件（筒井専務理事）

・JIA災害対策会議の議長、委員並びにJIA保存再生会議の委員を承認した。

・全国会議の委員は各支部の支部長推薦を受けて、議長が指名、理事会承認となる（委員会規程14条）。議長は会長が指名し、理事会承認。（同規程7条）。委員数は13名以下（同規程15条）。

5.会員規程改正の件（上浪総務委員会委員長理事）

・第3条の5項の追加。正会員が登録建築家になることを会員規程上で明文化。しかしこの条項だけでは、正会員全員が登録建築家になることは担保されていない。最終的には定款改訂の道があるが、会員保護などの観点において内閣府との間で未調整であり、現段階での総会承認は不可能。ただJIAの存在意義はあくまで「公益保護」にあり、そのための会員の資質向上は必須、という改正の主旨を理解することが必要。支部・地域会を通じて会員には丁寧な説明が求められる。

6.JIA小規模建築向け建築設計・監理業務委託契約書、約款の取扱いの件（森業務改善委員会委員長）

・従来のJIAの小規模向け契約書と約款の販売は停止して廃止とし、四会連合の「建築設計・監理業務委託契約書（小規模向け）」に統一することとした。ただ、JIAの特徴であった従来の「JIAとは」「建築家の報酬の問題」「建築家とは何する人」などをこの統一された契約書にどのように付随させて利用していくか、今後検討する。

【報告事項】

1.JIA建築家大会2015金沢について（近江北陸支部長）

9/17～9/19の開催。9/19の各「フォーラム」は建築3会の共同開催となっており、それが金沢大会の1つの特徴でもある。大会概要とスケジュール説明がなされた。

2.会費規程改正（案）についての報告（筒井専務理事）

・中国支部：支部運営費から支部会費への変更。

・関東甲信越：ジュニア、学生会員の会費を統一した。

これらを総会にかける。

3.活動及び業務執行状況報告（筒井専務理事）

①公共建築発注方式の多様化への対応（公共建築設計懇談会・東京都）報告

国交省が多様な発注方式に関するガイドライン（案）をまとめた。契約方式別に施工単独、設計施工一括、ECI（設計段階から施工者が関与）など7方式に分類してそれぞれの方式の概要、特徴、問題点を整理した。ただあくまで現段階ではサンプル的なものであり、完全なものではない。JIAは昨年1年間、国交省官庁営繕部と建築5会とで発注方式について議論を重ね、ガイドラインの完成を待って対策など、具体的議論に進む予定だったが、以上の理由でできていない。問題点としてはガイドラインが土木的発想、施工的観点からまとめられており、建築設計の観点が終始欠落している。JIAは今後、公共建築設計懇談会の場で引き続き議論を深める。

②改正建築士法の普及活動等に関する報告

6/25より改正士法の施行。名刺、ポスター、HPでの広報、住宅関連雑誌による周知、国の外郭団体にアピールなどで普及活動を行う。全国で講習会が実施される。

③会員増強計画案に関する報告

・JIAの魅力を伝えて、会員拡大に向けて活動していく。フレッシュマンセミナーを6/12にJIA建築家クラブにおいて開催、全支部、全地域会に開放されているので、参加してもらいたい。広島県の営繕課から六甲山のコンペについて照会あり。

・フェロー会員の認証票のブランドイメージが希薄。認証票としてのデザイン性にも配慮したい。担当部署は未定だが、今後正副会長会議が主導して改善へ動く。

④タイ建築展への建築五団体等共同によるブース出展

かねてから交流を続けてきたタイ王立建築家協会（ASA）からJIAに要請があり、バンコクで4/28～5/3で開催された「ARCHITECT 2015」に出展依頼があった。JIAはこの要請に応え、建築5団体（学会、士会連合会、事務所協会連合会、日建連、JIA）の枠で、ブースによる出展を行った。

⑤後援名義承認の報告（会長専決事項）

⑥その他

本部の事務局は2014年のJIA決算において、本部、支部、地域会、部会、合計で79の会計の合算作業を行っている。6/3の理事会において決算報告をする予定。

4.通常総会等スケジュールについて

6/25本部総会のタイムスケジュールと、理事（懇談）会の今後の日程の発表。

金沢大会での9/17理事懇談会が、取りやめとなった。

07_アーキテクトcs6.indd 21　15/06/19 17:31

東海支部役員会報告

今回の役員会は、5月8日（金）開催の2015年度通常総会議案書を確認することが主題となる役員会であったが、抱えている課題がなかなか減らないことを痛感した役員会でもあった。支部・地域会の財政問題は、特に地域会の事業活動を前進させるためにも、いつもより知恵を絞らなければならない難しいところに直面している。

尾林孝雄｜尾林建築構造設計事務所

日　時：2015年4月23日（金）16：00～18：00
場　所：昭和ビル5階　JIA東海支部会議室
出席者：支部長、理事、幹事9名、監査2名、オブザーバー 9名

1. 支部長挨拶

昨日は岐阜、先週は三重の総会に行ってきました。今日は支部総会資料があります。審議のほどお願いします。

2. 報告事項

(1) 本部報告

①第5回理事懇談会（4/17）（石田）※P20理事会レポート参照

②職能資格制度委員会・建築家資格制度委員会合同委員会（4/13）（植野）

3/31本部建築家認定評議会で新規認定および更新の報告を受け認定。支部認定評議会評議委員の選考については、全員承認。「JIA正会員は全員登録建築家に」について、芦原会長より所信、内容について大澤委員長より説明。評議会は電子決済としたい旨を伝えた。

③第21回 フェローシップ委員会（4/15）（谷村）

会員資格の停止・退会について、地域会では内容および手続きなどを充分理解しておく。会員数4,095名。フレッシュマンセミナーは金沢大会では行わない。地域会長会議は行う。会員促進企画ワーキングでは、広報の方法や企画内容の提案あり。全国学生ネットワークを構築し、支部ごとに学生部会設立の提案。六甲のコンペの件で広島県営繕課から連絡。フレッシュマンセミナーは、6月に関東で、秋に関西で行う予定。

④第1回 本部広報委員会（4/21）（奥野）

愛知地域会のHPの会員規程を修正。メルマガは、中澤主査は会員向けのみ、一般向けは市村氏が担当。金沢全国大会の参加登録募集は、6月1日から。

⑤CPD評議会（4/22）（塚本）

JIA本部にて本部CPD評議会を開催。90件のプログラムを審査。九州から多数の申請あり。高野委員長より提案のCPD細則改定について説明を受け、意見交換。理事会承認に向け情報提供制度とのすり合わせを行う。

(2) 支部報告

①正会員退会届　「渡辺博史」（水野）、「竹下繁」（村松）

②東海支部総務委員会（4/23）（見寺）

各地域会の出席者を2名とし開催。各地域会の財政事情の説明。財政の立て直しと支部会費徴収の問題について意見交換。

③東海支部建築家認定評議会 評議員推薦（久保田）

議長候補者として、静岡地域会（中部部会）の鈴木武氏を推薦。評議委員に㈱中日新聞社長室長渡辺亨氏、愛知県弁護士会伊藤陽児氏の2名を推薦。

④東海学生卒業設計コンクール2015一次審査会（4/18）（吉川）

9校から45名、計45作品の応募があり、入選者は10名。岐阜、三重、静岡、からの応募が少ないので、積極的な参加を求める。

⑤東海支部 災害対策委員会連絡網（石田）

2015年度東海支部災害支援ネットワークを報告。

⑥JIA国際交流助成金募集（久保田）

2015年度JIA国際交流活動支部事業助成要綱及び「JIA国際交流活動支援助成 申請／通知書」を紹介する。申請締切日：第1回目2015年5月29日（金）、第2回目10月30日（金）

⑦支部大会特別委員会（谷村）※P15支部大会に向けて参照

(3) 各地域会からの報告（各地域会長）※P23地域会だより参照

1.審議事項

①支部総会議案書について（久保田）

審議の結果、一部語句等の訂正を条件に承認。2014年度東海支部の公益事業比率は61%。

②総務委員会の提案を受けて、事務局家賃減額分について、支部と愛知の減額割合を（50%：50%）で審議、承認。

2.協議事項

①設立趣意書「子どもの建築学校委員会」およびJIA金沢大会「建築と子供たち会議」（9/17）（関口）事後報告となるが審議事項とし、東海支部委員会としての設立について審議の結果、承認。委員会名称：子どもの建築学校委員会　委員会構成：委員長は鈴木賢一、委員は柳澤力、久保田英之、高橋敏郎、西村和哉、高木耕一、上原徹也、関口啓介の7名。

活動計画：※P12「子ども建築学校委員会」設立に寄せて参照

3.その他

①アーキテクト協賛広告について（牧ヒデアキ）

4～1月までは愛知地域会が、2月は静岡地域会（4社）が、3月は岐阜地域会（2社）と三重地域会（2社）が担当となっている。各法人協力会へは各地域会より内諾を得て建築ジャーナルの作業に移行。各地域会での割り振りスケジュールなど、確認をお願いする。会報委員会では広告集めの作業は原則行っていないため、各地域会などでのフォローをお願いする。協賛会社名が決まったら、久保田幹事長と支部事務局にメールで報告。

②2015年度理事会・理事懇談会開催日程（久保田）

本部理事会の日程が不確定のため、支部日程で確定できないところは後日とする。

③委員会名簿作成について（久保田）

各地域会は5月中に、支部委員会に派遣する委員名簿を久保田幹事長に報告。

[監査意見]

登録建築家制度が有名無実化して、味のないものにならなければと思います。（山田）

07_アーキテクトcs6.indd 22　15/06/19 17:31

東海とっておきガイド㊽ | 静岡編 |

鈴木俊史（俊建築設計事務所）

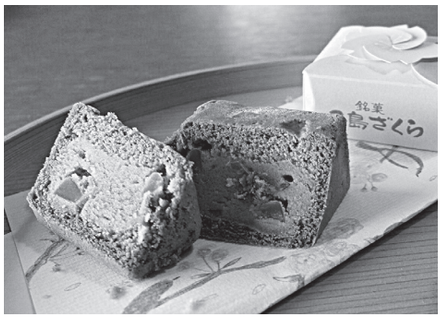
三島の看板建築

三島市の看板建築の紹介です。戦争で空襲にあわなかった三島には、このような「看板建築」がまだ多数残っています。関東大震災後、商店などに用いられた様式で、主に木造2階建ての店舗兼住宅建物のファサードを、震災の教訓として耐火性のモルタルや銅板で仕上げて装飾をつけた建築です。平坦な壁面を看板のように自由なデザインで装飾したので、「看板建築」と藤森照信氏によって命名されたそうです。写真は、三嶋大社前の商店街にある「懐古堂ムラカミ屋」大正15（1926）年に建てられたもので、国の登録有形文化財に指定されています。最近、隣に新しい商業建築もできて賑わっていますが、同じく銅板で装飾された「渡辺漆器店」も斜め前にあり、その存在感は重みがあります。ほかにもモルタルで装飾した看板建築が市街地のあちこちに点在しています。大正ロマン、当時の棟梁や職人の思いを想像し技を感じる三島散策は、楽しいひとときです。

懐古堂ムラカミ屋：三島市大社町18-5

銘菓「三島ざくら」

三嶋大社前の商店街に、昭和11（1936）年創業の老舗和菓子店「兎月園」があります。日本の代表的なさくら、染井吉野の先祖は、江戸彼岸と大島桜であることが、三島市の国立遺伝学研究所の故竹中要博士の研究で明らかになりました。染井吉野の多くの実生にはいろいろな花が咲きますが、博士はその中でもっとも美しい花をつけたものを「三島ざくら」と名付けました。これに由来してつくられたお菓子です。黒糖・栗・しそ餡の3種類があり、中に桜の塩漬けを入れた、カステラ饅頭風の焼き菓子です。白（栗）、桃（黒糖）、灰（しそ）と、それぞれが桜の花をあしらったかわいい小箱に入っています。三島の銘菓として長年愛されつづけています。三島にお越しの折にはぜひご賞味ください。



兎月園：三島市中央町3-40　TEL055-972-2366

地域会だより

＜静岡＞

5/21　静岡地域会定例役員会
5/22　設備設計協会第3回定時総会懇親会に出席
5/26　静岡県住宅振興協議会第１回理事会および通常総会に出席
5/28　静岡県建築士事務所協会定時総会に出席
6/3　静岡県建築士会定例総会に出席
6/17　静岡地域会定例役員会（西部持出・拡大）
　第1回プロフェッショナル講演会「松韻亭の建築を振り返って」
　第1回建築ウォッチング「浜松市松韻亭」
7/7～8　第2回建築ウォッチング（JIA静岡建築ツアー）
　「世界遺産・富岡製糸場と上州の名建築をめぐる」
7/16　静岡地域会定例役員会

＜愛知＞

5 / 8　愛知役員会・総会、講演会、懇親会
5 /21　住宅研究会幹事会
5 /22　JIA・愛知法人協力会総会
5 /25　支部大会実行委員会第9回
6 / 2　事業委員会
6 / 7　東海住宅建築ツアー　そうだ三河、行こう
6 / 8　全国住宅部会連絡会議
6 /10　素材を訪ねる旅～もっと知りたい三州瓦～
6 /10　愛知・会員委員会　JIA・愛知賛助会役員会
6 /10　愛知・研修委員会
6 /15　支部大会実行委員会第10回
6 /16　総務委員会
6 /16　ブリテン委員会
6 /19　役員会
6 /24　「タカラスタンダード㈱名古屋工場」見学会
6 /28　～素材を訪ねるさんぽ～「ふすま」

＜岐阜＞

6/5　岐阜地域会 第1回 役員会 18:00～20:00
　場所：ハートスクエアG　小研修室2
7月予定　岐阜地域会 第2回 役員会 開催
　場所：ハートスクエアG　小研修室

＜三重＞

5/9　事業委員会
5/15　第2回役員会、第1回例会
6/19　第3回役員会、第2回例会、会員研修会1（三重県教育文化会館）
7/17　第3回持出し例会、会員研修会2（キッチンハウスS/R）

07_アーキテクトcs6.indd 23　15/06/19 17:31

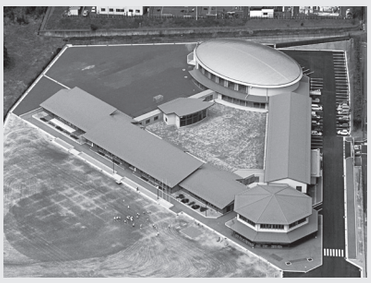
快適で環境に優しい屋根空間を

法人協力会通信⑱
＜岐阜＞

堀井邦彦｜三晃金属工業㈱ 岐阜営業所

当社は金属製の屋根材・壁材を製造・販売、それらに関する工事の設計提案・施工管理を行っています。昭和24（1949）年に山口県で設立し、今年で67期を迎え、常に屋根業界のトップを走り続けてきました。一言に屋根といっても、素材や工法の違いによってさまざまな形状、特長の屋根が存在します。その建物の用途にあった種類の「屋根」が選ばれ、産業や人々の暮らしを守り、みなさんの住む街の景観を創造しています。特に大型建造物には不可欠な「長尺屋根」の分野においては、製造過程の機械化や海外からの技術導入など、先駆的な事業展開を行いながら数多くの実績を残しています。

私たちの業務は営業から施工管理まで幅広く手掛けます。営業では施主、設計事務所、建設会社（ゼネコン）に対して、成形加工、施工管理などを総合的に提案し、受注活動を行います。施工管理は施工現場での管理一切を当社窓口として担当します。職人の手配、工期の進行管理から、部材の発注、複数の業社が同時に作業する現場での調整などプロジェクト全体をマネージメントする要職です。



谷汲小学校

屋根は雨や風などの厳しい自然条件から人々の暮らしを守るだけでなく、その意匠（デザイン）や、周囲の景観との調和をはかるうえでも、とても重要な役割を担っています。また近年、屋根に対するニーズはこれまでにも増して多様化しており、太陽光発電屋根や緑化屋根に代表されるような「環境製品」、それから、人手不足や熟練工の高齢化に対応した「施工性を高めた製品や工法」、これまでの建築ストックを再生・維持する「改修・塗装製品」が大きなキーワードとなっています。当社では、長年培った技術を生かして、このような時代のニーズにも積極的に対応していきたいと思っています。

●三晃金属工業㈱岐阜営業所
〒500-8346　岐阜市清766-1 飛鳥93ビル1F
TEL 058-274-9031　FAX 058-274-9032

編集後記

●いろいろな情報がネットでとれる時代にあって、紙媒体の雑誌はどうあるべきか。ブリテン委員会では「ARCHITECT」のあり方について議論を重ねています。インターネット全盛の今、紙媒体を選択する理由を考えてみました。

①紙に記録されている安心感がある：ネットでは情報が溢れているため必要な情報が埋もれがちです。紙に印刷された情報を所有していることが安心感につながります。また何年も前の資料を記録として見ることも出来ます。

②バリアフリーである：デバイスを介さずにだれでも情報に接近できます。起動して、サイトにアクセスするという操作が不要で、ページを開けばすぐに読むことが出来ます。

③紙という実態がある：手にとって、触って、書き込んで、付箋を貼ることが出来ます。実はこのことが、私が本や雑誌を好きな一番の理由です。

Webでいいという意見もありますが、「ARCHITECT」は紙媒体の雑誌であることに、その価値があると思います。表紙は一足先に新しくなっていますが、紙面の中身についても近々リニューアルする予定ですので、楽しみにお待ちください。（石田博英）

●語られている内容とはズレるが、街をぶらぶら歩いて文化を感じる界隈になかなか出会わない。「俺ってカッコイイだろ」とでも言うかのように、道に対していきなり建っている「ダンディズム建築」に、私は文化を感じない。引き込まれることもない。銀座ウエスト青山ガーデンが、緑の環境を取り込んだ喫茶空間をつくったという記事を目にし、行ってみた。店の奥に緑の庭が広がっているのではない。道沿いに、さして広くはない緑のガーデン、ウッドデッキテラス席、その奥に喫茶空間。ウッドデッキで腰を下ろすと、道行く人の姿は、見え隠れする。道側にもくつろぎが生まれている。居酒屋の計画で、店の中の様子が窺えるように、大小の開口を設けたり、福祉系の施設で利用者が、居ながらにして内から、まちの様子がわかるように設計したりしても、ブラインドを下げられてしまうことが多い。地域社会と建築がかかわる策は、日本的なあるいは、地域によって異なる解があるのか。ここは、日本型オープンカフェか…。

（笠嶋淑恵）

ARCHITECT
第 322 号
発　行　日　2015.7.1（毎月 1 回発行）
定　　価　380 円（税込み）
発行責任者　石田　壽
編集責任者　牧ヒデアキ
編　　集　東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部
名古屋市東区泉 1-1-31　吉泉ビル 703
TEL（052）971-7479　FAX 951-3130
発　行　所　（公社）日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26　昭和ビル
TEL（052）263-4636　FAX 251-8495
E-Mail：shibu@jia-tokai.org
http://www.jia-tokai.org/

07_アーキテクトcs6.indd 24　15/06/19 17:31